

京都大学教育研究振興財団助成事業
成 果 報 告 書

2024 年 7 月 22 日

公益財団法人京都大学教育研究振興財団
会 長 藤 洋 作 様

所属部局・研究科 教育学研究科

職 名・学 年 博士後期課程1回生

氏 名 有海 春輝

助 成 の 種 類	令和7年度 ・ 国際研究集会発表助成		
研 究 集 会 名	国際個人差研究学会 (ISSID) 2025年大会 International Society for the Study of Individual Differences (ISSID) 2025 conference		
発 表 形 式	☐ 招 待 ・ ☐ 口 頭 ・ ☒ ポスター ・ ☐ その他(		
発 表 題 目	The relationship between two subtypes of narcissism and BIS/BAS in creators and non-creators		
開 催 場 所	ウィーン大学		
渡 航 期 間	2025年 7 月 11 日 ～ 2025年 7 月 20 日		
成 果 の 概 要	タイトルは「成果の概要／報告者名」として、A4版1枚程度・和文で作成し、添付して下さい。「成果の概要」以外に添付する資料 ☒ 無 ☐ 有()		
会 計 報 告	交付を受けた助成金額	350,000円	
	使用した助成金額	350,000円	
	返納すべき助成金額	0円	
	助成金の使途内訳 (差し支えなければ要した 経費総額をご記入ください)	費 目	金額(円)
		航空運賃	288,170
		学会参加費	95,343
	以上に助成金を充当		
当財団の助成について	(今回の助成に対する感想、今後の助成に望むこと等お書き下さい。助成事業の参考にさせていただきます。) 円安の影響もあり、航空費および学会参加費で支援額をオーバーしましたが、支援のおかげでかねてより行きたいと思っていた学会に行くことが出来ました。貴重な支援に改めて感謝申し上げます。メールでの採択通知が来なかったことや、渡航前に体調を崩していたこともあり、採択されたことに遅れて気がつきました。可能であればメールでもご連絡いただけますと助かります。また、事務手続きはWeb上で完結できると、より応募しやすいのではないかと思います。		

【the International Society for the Study of Individual Differences について】

本助成を受けて参加した「the International Society for the Study of Individual Differences(以下 ISSID)2025」は、ヨーロッパで隔年開催される個人差・パーソナリティ心理学の学会です。北欧に限らず、米国やアジア諸国等、様々な心理学者が一同に会し、活発なコミュニケーションが行われます。

ISSID2025 は、7/14～7/18 の 5 日間にわたって行われました。会期中は様々な題材やテーマを取り扱ったトークやシンポジウムが行われ、参加者は自分の興味関心に合わせて聴講します。また、2 日目(7/15)のディナーの後にはポスター発表が行われました。

【学会発表参加の成果】

ポスター発表では、国やバックグラウンドの違う様々な研究者たちが、私の研究を聞きにきてくれました。英語で発表する経験が少なく、緊張していたこともあって途中でうまく言葉が出なくなってしまうこともありましたが、発表を聞きにきてくれた方は終始優しい態度で、有益なコメントをくださいました。大勢の方の前で、自分の中の英語の知識を絞り出しながら研究内容を発表するという貴重な経験を積むことができ、自身の研究内容をより多くの人に広めたいというモチベーションも更に高まりました。

ポスター発表の時間は 3 時間と、国内学会に比べて比較的長い時間が設けられていたため、他の研究者の発表も積極的に聞きに行きました。私の研究テーマのひとつである自己愛は、本邦においても研究されているものの、国際論文における最新のフレームワークや理論は導入されていないという点で研究の余地のある概念です。ISSID2025 では、最新の個人差・パーソナリティ研究が数多く発表されていましたが、自己愛についても例外ではありません。近年、自己愛は安定した個人差特性であるという考え方から、様々なライフイベント・経験を通じて変容しうる概念であるという考え方にシフトしつつありますが、ISSID2025 でもこうした考え方に基づいた研究が多く、最新の知見に触れることで大変勉強になりました。自己愛に関する研究以外にも、興味深い研究は数多くあり、研究者とのコミュニケーションを通じて様々な知見を得ることが出来ました。研究の最先端に触れることができるのは、国際学会ならではの魅力だと改めて感じさせられました。

また本会議には、以前個人的にコンタクトを取っていた VIZJA University の Radoslaw Rogoza 教授もいらしており、シンポジウムでも自己愛に関する研究を発表されていました。直接お会いしてお話しする絶好の機会だと思い、勇気を振り絞って挨拶をしにいったところ、温かな態度で接してくださいました。最先端の研究に従事し、権威のある国際論文誌に何本も論文を載せている方とお話でき、大変刺激を受けました。普段、論文を通じて(一方的に)馴染みのある方と直接お会いでき、研究へのモチベーションもますます高まりました。

【本支援への御礼】

ISSID2025 への参加を通じて、様々な経験を積むことができました。これらの経験は、今後の研究生活に対するモチベーションを高めてくれました。本支援がなければ、国際学会に参加できず、様々な研究者との交流や、研究に対するモチベーションの向上もなかったことでしょう。円安の影響により、国際学会への参加がますます難しくなりつつある情勢において、金銭的な支援を受けられることは、経済的に余裕があるとはいえない博士後期課程の学生が国際学会にチャレンジできる機会を提供してくれるものだと思います。改めまして、貴重な支援の機会をいただき、感謝申し上げます。

また、博士後期課程の学生の皆様に向けましては、本助成を受けて国際学会への参加にチャレンジされることを勧めます。興味や関心の異なる様々な国の研究者たちと、研究という我々にとっての共通の「言語」でコミュニケーションする機会は、研究の推進において重要であると確信しています。英語でのコミュニケーションに自信がないという方や、異国の地での生活に不安や孤独感を覚える方もいると思います。事実、私もその一人でした。ですが、今回の助成を受け学会発表を行ったことや、研究者とのコミュニケーションで成功・失敗(もうすこし上手くできたと思われる点)した経験は、今後数十年続くだろう研究生活において間違いなく糧になるものでしょう。無論、国内学会で自身の研究を発信し続けることも非常に重要ですが、国際学会への出席でしか得られないものもあります。論文という媒体は発刊に期間を要する以上、我々が閲覧できるまでにどうしても時間差が生じてしまいます。国際学会は、まだ論文として発表されていない、研究の最先端を目の当たりにできる貴重な機会です。本支援が広まり、国際学会にチャレンジする学生が増えることを願ってやみません。